

ZSSSK

生活科・総合教育だより

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会会報

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

事務局 東京都大田区立東調布第一小学校
〒145-0076 東京都大田区田園調布南28-7
TEL 03 - 3750 - 2258

発行人 相川 哲也

編集人 長谷川 かほる

第22回全国小学校生活科・ 総合的な学習教育研究協議会 京都大会を振り返って

大会実行委員長 田中千草
(京都市立桂徳小学校長)

平成25年11月21日・22日紅葉美しい京都で、第22回全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会京都大会並びに第16回近畿地区生活科・総合的な学習教育研究協議会京都大会を、ホテルグランヴィア京都、京都市立御所南小学校、京都市立桂徳小学校を会場に開催いたしました。

平成13年に第10回の記念大会を京都で開催させていただいてから12年の月日が流れました。この間に、生活科や総合的な学習の時間の目標が再確認され、内容の改善がなされました。

前回の大会で「子供の思いを大切にしたい単元構想」をキーワードに授業を構想し、京都から発信しました。今回22回大会ではその精神を受けつぎつつ、どうしたら今求められている気付きの質を高められるのか。また、探究的な学習が質の高いものとなり、他者と協同して学ぶことでより質の高い思考がなされるのかを、これまでの研究にとらわれず新たな授業づくりを追い求めてきました。

そして大会主題を「感動 愛 そして未来へ」サブタイトルを「探究と協同でつくる確かな学びのスパイラル」とし、めざす子供の姿を「自分の考えをつくる子供」「かかわり合い高めあう子供」「よりよい自分を求める子供」、研究の視点を「探究」「協同」「思考」「自己」とし授業改革に取り組んでまいりました。

大会1日目は、ホテルグランヴィア京都にて全体会を開催しました。開会行事に続き文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官田村学先生による記念講演を行いました。この中で田村先生は、生活科も総合的な学習の時間も成果が確認されているというお話をされました。例えば、総合的な学習の時間をきっかけとして他の教科での授業改革がなされていること、総合的な学習の時間に取り組むことで学力が向上したこと、人と人とのかかわりが豊かになり

子供の心が安定したという事例をお話しされました。また、全国学力調査と総合的な学習の時間の相関関係を近々示す予定であるとお話されました。

次に、光華女子大学の加藤明先生をコーディネーター、田村学先生・文教大学の嶋野道弘先生・愛知教育大学の野田敦敬先生の3人の先生方をシンポジストに「生活科・総合で味わわせたい学ぶ手ごたえ」というタイトルで、「先生も子供も手ごたえを感じる学びは生活総合にある。」と話し合われました。

2日目は2会場【京都市立御所南小学校・京都市立桂徳小学校】に分かれて、大会の基調提案、会場校提案、公開授業、課題別分科会、学年提案をさせていただきました。

大会提案のメインは「単元づくり」です。生活科では「体験と表現でつくる確かな学びのスパイラル」、総合的な学習では「探究と協同でつくる確かな学びのスパイラル」を大切にしたい単元をつくるために研究してきたことを提案させていただきました。会場校提案は大会提案を受け、子供のおもひ願ひからつくられた生活科、課題が生み出され思考がスパイラスに深まっていく総合的な学習について提案しました。その後、公開授業を通して実際にその単元づくりが子供の学びにどうかかわっているのかを見ていただきました。総合的な学習では特に課題が生み出される様子を明確にするために「発見課題」「追究課題」「提案課題」「熟成課題」「表現課題」と課題が深まるごとに名前を付けその様子を明確に表しました。2会場の授業はいずれもこの熟成課題から表現課題を中心にした授業を公開し、子どもたちの思考が熟成されていく様子を参観していただきました。京都の子どもたちがこの学習を通して未来へはばたく様子がうかがえましたでしょうか。

2日間を通して800名以上の参会者の方々に見ていただいた京都の提案が、これからの生活科・総合的な学習の一層の充実につながれば幸いです。

ご参会いただいた皆様、ご支援ご指導をいたした皆様、課題別分科会提案をしていただいた皆様に心から感謝いたします。

最後になりましたが、本大会の開催にあたっては、京都市教育委員会のみな様のご指導のほか、文教大学の嶋野道弘先生、愛知教育大学の野田敦敬先生に長きにわたり研究と授業づくりをご指導いただきましたこと心より御礼申し上げます。

第8回四国小学校生活科・総合的な学習教育 研究協議会研究大会 高知大会を終えて

大会主題 「21世紀を拓く子ども」

～自らの夢をはぐくみ、生き生きと
豊かに学ぶ子どもの育成～

大会実行委員長 小堀 美雅子
(香南市立香我美小学校長)

「四国は一つ」の掛け声のもと、その掛け声通り、一時は四国の覇者となった土佐国 長宗我部元親の城山のふもとにある南国市立岡豊小学校を会場に、第8回四国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会研究大会高知大会を平成25年11月12日（火）に開催いたしました。

大会当日は、南国高知ならぬやや肌寒い天気ではありましたが、四国内外から多くの先生方、関係者の皆様にご参加をいただき、盛会のうちに終了することができました。ご参加いただきました皆様、大会を支えていただきました皆様には心より感謝申し上げます。

さて、四国地区の研究大会は、香川－徳島－高知－愛媛と時計回りで研究をつなぎ、2年に一度の開催を目指してきました。この高知大会は、ちょうど二巡目の節目にあたり、これまでの先輩方の激励やご指導の賜物と感慨深いものがあります。

大会主題は、研究母体である「土佐教育研究会生活科・総合的な学習部会」が長年、取り組んできたもので、子どもたちが、《自らの夢》の実現に向かって、自分自身で生きる力を培いながらたくましく生きる姿を目指しています。それは、決して独りよがりなものではなく、友だちを含め、身近な事象と関わりながら、他の良さを認めるようなしなやかな心をもって生きることであり、身近な人々、社会、自然と進んでかわり、意欲や自信をもって生きることであると捉えています。

会場校の南国市立岡豊小学校は、昨年度、全国小学校社会科研究協議会研究大会の会場校として、生活科と社会科の研究発表をされ、地域教材の開発や習得・活用・追究を目指す単元構成や授業づくりに

ついて貴重な提案をされました。この実績を基に、本年度は各教科等と関連した生活科・総合的な学習、特に、地域をテーマに、体験の充実を図り、協同的・探究的な学習の過程の成立を目指してきました。

公開授業は、1年生「ひろげよう！おいもワールド」、2年生「すてきだな いのち！～牛を育てる濱口さんをたずねて～」、3年生「元親にアッテQ」、4年生「わたしたちのゴミへらし大作戦（岡豊小ゴミへらし課）」、5年生「地域の産業は今」、6年生「南国歴史人物伝」の6本で、それぞれにゲストティーチャーも含めた人・もの・ことと積極的にかわり、学びを高めようとする生き生きとした子どもの姿が数多く見られました。授業別分科会では、参加者から活発な意見が出され、助言者からも「地域とともに学ぶことの大切さは誰もが分かっている。地域の何を教材にし、どう料理するか。それが、教師のセンスであり、力量であり、醍醐味でもある。」など示唆に富むご指導をいただきました。

課題別分科会では、第1分科会「気付きの質や思考力を高める」（徳島・香川）、第2分科会「伝え合い・交流する活動の充実」（愛媛・高知）、第3分科会「安全教育や生命に関する教育の充実」（香川・高知）において、それぞれ生活科と総合的な学習の発表があり、活発な話し合いが行われ、最後に助言者よりまとめてご指導をいただきました。

記念講演では、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の田村学先生に「生活科・総合的な学習の時間 これからの展望と期待」と題して講演をしていただきました。「今、国際的にも注目されている汎用的能力を身に付ける要の時間として、生活科や総合的な学習の時間の重要性が高まり、その授業の在り方が問われている。」とのことで、学力との相関や実践事例からの考察など、今後の授業づくりに直接かかわる示唆に富む内容で、充実した時間をもつことができました。

閉会行事では、岡豊小学校山本校長からのあいさつ、そして次期開催県を代表して、香川県多度津町立四箇小学校渡辺校長から熱のこもった案内があり、研究の継続と発展を誓い合い、幕を閉じました。

第15回関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会 千葉大会を終えて

大会主題 「今こそ 探究の扉が開くとき！」
～子どもたちが没頭する
生活科・総合的な学習の時間をめざして～

大会実行委員長 森 成 雄
(四街道市立中央小学校長)

第15回関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会千葉大会を、平成25年11月8日（金）、佐倉市立染井野小学校を会場に開催いたしました。

大会当日は天候にも恵まれ、県内外から350名余りの先生方、関係者の皆様にご参加をいただき、盛会のうちに終了することができました。ご参加いただきました皆様、大会を支えていただきました皆様には、心より感謝を申し上げます。

生活科、総合的な学習の時間は、「学び方を学ぶ学習」といわれています。そして、この「学び方を学ぶ学習」こそ、「21世紀型学力」といわれる「活用型学力」をつけるための重要な学習です。

しかし、千葉県の現状を見ると、「体験あって学びなし」という取組がまだまだ見られました。

そこで、今大会を実施するにあたり、すべての取組を「探究的な学習」にしていかなければならない、そのためには、「探究でなければ、生活・総合ではない」という考えを基に、原点からの出発しかないと考えました。そこで、研究主題を「今こそ 探究の扉が開くとき！」とし、副題には、めざす児童の姿ということで「子どもたちが没頭する生活科・総合的な学習の時間をめざして」としました。この研究主題のもと、千葉県の生活科・総合的な学習の時間の創造に向けた研究の成果を本大会で発信しました。

会場校の佐倉市立染井野小学校では、県の主題を受け、「探究心を育て、自己を見つめる生活科・総合的な学習の時間」をテーマに、地域を生かした豊かな体験活動と協同的な学びを通して研究を進めてきました。

公開授業は、1年生「そめいのだいすき」、2年生「大きくなあれ（ほくのやさい、わたしのやさい）」「はっけんくふうおもちゃ作り」、3年生「佐倉のじまんかるたを作ろう」、4年生「みんな野草探検隊Ⅲ」、5年生「発信！印旛沼の「未来」」、6年生「未来をつくる佐倉人～染井野の誇り再発見」の全学年11学級の授業が公開され、思考ツールの活用、地域人材の活用等を通し、子どもたちが学習に没頭する様子が発表されました。

課題別分科会では、第1分科会・生活「気付き」、第2分科会・生活「伝え合い」、第3分科会・総合「探究」、第4分科会・総合「評価」、第5分科会・総合「協同」、第6分科会・総合「地域」の6つの視点で提案が行われ、熱心な質疑応答、研究協議と多くの交流がありました。

記念講演では、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の田村 学先生から「21世紀型学力を創造する探究的・協同的な学習」と題してご講演をいただきました。生活科や総合的な学習の時間の授業の在り方について、公開授業の写真や担任の先生方との振り返りを通してわかりやすく講評していただき、また各地の実践例やデータ等から今後の生活科・総合的な学習の時間の重要性と私たちの進むべき方向についてお話いただきました。

閉会行事では、次期開催の栃木県を代表して、宇都宮市立豊郷南小学校長の刀川 啓一先生より第16回関東地区大会（平成26年度）のご案内をいただき、関東地区全体での研究の継続と発展を誓い合って、大会の幕を閉じました。

大会終了後、田村先生より「とても素晴らしい大会でした。こうした積み重ねが、生活・総合の発展につながります。」と激励の言葉をいただきました。千葉県の生活科・総合的な学習の時間は、主題の通り、扉が開かれたばかりですが、この大会を契機に少しずつでも前進してまいりたいと思います。そして、微力ではありますが、生活科・総合的な学習の時間の発展に千葉県の総力をあげて努めてまいります。今後ともご指導よろしくお願いたします。

更なる追い風を吹かせよう!

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
会長 相川 哲也
(東京都大田区立東調布第一小学校長)

本来、子どもたちは、「知りたい、分かってほしい、できるようにになりたい」という思いや願いをもちながら、学習活動に取り組んでいます。そんな子ども側に立ったとき、我々教師は、ただ知識や技能を身に付けさせることだけに精力を使うのではなく、子どもの内面にある力や可能性を信じ、その力を上手に引き出し、子どもの学びを見守り、支援していく必要があります。そのためには、教師一人一人が、主役である子どもたちをしっかりと理解・把握した上で、教材を開発し、単元をしっかりと構築し、探求や協同を基本とした学習を進めていかなければなりません。

本研究協議会では、これらのことを念頭に置きながら、11月21日・22日の両日にわたって、第22回全国大会及び第16回近畿地区大会（京都大会）が行われました。大会では、「感動」「愛」「未来」の3つを柱として、探究と協同でつくる確かな学びのスパイラルを生かした実践授業を桂徳小学校と御所南小学校で公開するとともに、各都道府県の先進的な実践報告が行われました。また、北海道ブロックでは、10月4日に倶知安町立倶知安小学校で、東北ブロックでは、10月11日に盛岡市立杜陵小学校で、関東ブロックでは、11月8日に佐倉市立染井野小学校で、四国ブロックでは、11月12日に南国市立岡豊小学校で、九州ブロックでは、11月8日に宮崎市立檉小学校で、各ブロックの大会が開催され、大きな成果を収めることができました。

生活科も総合的な学習の時間も、これからの時代を生き抜いていく子どもたちにとっては、欠くことのできない学習活動であると考えます。幸いにも、各地区での取り組みの成果が、子どもたちの姿は勿論、様々な調査結果の数値になっても表れてきています。このことは、本研究協議会での取り組みが間違っていないことを示すものであり、まさに追い風が吹いてきたと言えます。私たちはこれからも、生活科や総合的な学習の時間を通して、子どもたちが身に付けてきた確かな学力を目に見える形で示し、この追い風をますます大きなものにしていく必要があります。

そのためにも、本研究協議会は、各ブロックや各都道府県と情報を共有しながら、よりよい研究や実践授業の輪を一層大きくし、更なる追い風を吹かしていきます。

〈事務局だより〉

全国大会を終えて

事務局長 齊藤 純
(東京都文京区立千駄木小学校長)

平成25年11月21日・22日に、第22回全国大会が紅葉真っ盛りの京都府において開催されました。お陰様で、全国から大変大勢の参観者を得て、大きな成果をもたらすことができました。

第1日目は、京都駅内にあるホテルグランヴィア京都を会場として、田村学先生の「探究と協同でつくる生活科・総合的な学習の時間の確かな学び」と題した記念講演が行われました。引き続き、同会場において、「生活・総合で味わわせたい学ぶ手ごたえ～子どもも教師も味わうために～」と題したシンポジウムが行われました。田村学先生、嶋野道弘先生、野田敦敬先生がシンポジストを、加藤明先生がコーディネーターを務められました。

第2日目は、御所南小学校(6年生は御池中学校)と桂徳小学校に分かれて、大会基調提案、会場校提案、公開授業、課題別分科会等が行われ、生き生きと活動している子供たちや澁刺と取り組まれていた先生方の姿を基に、活発な意見交換がなされました。

本大会の開催にあたり、長期に亘り準備を進めてこられた田中千草京都大会実行委員長を始め、多くの実行委員の皆様へ深く感謝申し上げます。

第2回の全国理事会は、田村学先生、34都道府県の理事、歴代顧問、事務局等総勢53名の出席者で開催いたしました。田村先生からは今後の生活・総合の動向について講話を戴き、次期新潟大会における課題別分科会の各都道府県への発表分担の協力依頼等がなされ、出席者全員で第23回全国大会の成功に向け協力することを確認いたしました。

◇全国理事会の運営について

全国理事会は、年間2回開催し、第1回を例年7月の第1金曜日に東京のフロンティア青山で、また第2回を全国大会の第1日目に開催しております。

第1回の理事会では、年間の活動計画や予算案の検討、全国大会・地区大会の案内、情報交換、教科調査官をお迎えしての講演会も実施しております。今後も充実した組織作りに取り組んで参りますので、ご協力の程何卒宜しくお願いいたします。

なお、来年度の第1回全国理事会は、7月4日(金)を予定しております。奮ってご参加ください。